

2016 11月

Vol. 18

京丹波森林組合 も り 森林の便り

第40回 全国育樹祭京都大会開催



(全国育樹祭式典行事会場風景・府民の森ひよし)



発行:京丹波森林組合

〒629-1121 京都府船井郡京丹波町本庄木下9番地

TEL. 0771-84-0086 FAX. 0771-84-1018 / 企画・編集: 総務課

第四十回全国育樹祭

テーマ「育樹の輪ひろげる森と木の文化」

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、植樹祭を開催した都道府県において昭和五十二年より開催されています。平成三年開催の植樹祭から二十五年後の今回、京都府において第四十回全国育樹祭が開催されました。

皇太子殿下をお迎えし、十月八日(土)宇治市の山城総合運動公園を会場に「お手入れ行事」が、また翌日の九日(日)には、南丹市の府民の森ひよしにおいて「式典行事」が行われました。

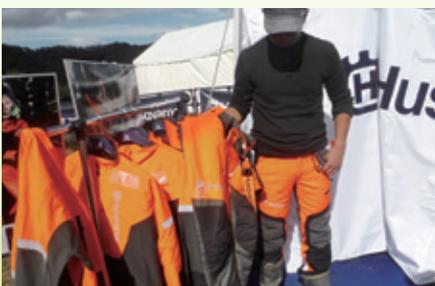
表紙の写真は、式典行事会場の様子です。当日は朝からあいにくの雨模様でしたが、式典が始まるころには雨も上がり、晴天となりました。約四千人の参加者が見守る中、丹波八坂太鼓が打ち鳴らされ、緑化功労者表彰や苗木の贈呈、北山杉の枝打作業などが披露されました。また、和知小学校六年生の緑の少年団も力強く会場を進行しました。

育樹祭の記念行事として併催された、「国際森林シンポジウム」や「緑のこどもサミット」など、森林の大切さを啓発する様々な行事が府内各地で実施されました。

京丹波森林組合も、森林の多様な文化の発信と交流の活性化に賛同し、多くの行事に協力と参加をさせていただきました。そのうちの一部ですがご報告させていただきます。

森林・林業・環境機械展示実演会

第四十回全国育樹祭の記念行事として、林業関係の機械が一堂に会した機械展示実演会が、十月十日(月)福知山市三和町で開催され、当組合からも、搬出作業で活躍するフォレストキーパーと職員が会場を訪れました。京丹波の山にあった搬出システムを考える上で欠かせないのが「高性能林業機械」です。一台で伐倒・造材・積込が可能な「ハーベスタ」や簡易架線集材機「スウィングヤード」など、安全性・効率性を高めるため、日々開発が進められています。安全防護衣や防振手袋などの安全具も多数展示され、メーカーの方と直接意見を交わし、実演を目の当たりにし、今後の事業を進めるうえで大いに参考になりました。



チエーンソーアート体験会

十月二十二日(土)午後、「森の京都」の取り組みとして、道の駅「京丹波 味夢の里」にてチエーンソーアート体験会が開催されました。北海道下川町から木霊 光(こだま ひかる)氏を講師に迎え、当組合職員・フォレストキーパー、京都府立林業大学校学生など参加者十六名が初めてのチエーンソーアートに挑戦しました。道の駅利用者の注目を浴びながら、それぞれ独創性あふれる“ふくろう”を彫りました。



京丹波●食の祭典2016

今年で六回目となる、「京丹波●食の祭典2016」が十月二十三日(日)、京都府立丹波自然運動公園において開催されました。

当森林組合も、昨年に引き続き、電動糸のご盤を使った木工体験と、スギを手ノコで切り三〇〇グラムの重さを当てる丸太切り体験のブースを出展いたしました。当日は役職員四名で対応しましたが、秋晴れのお天気も重なり、行列ができるほどの大盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



森林資源量解析システム導入後の活用について

森林の便り（十五号）でもお知らせしていましたが、町内の森林資源を持続的に活用する森づくりを進めるための「森林資源量解析システム」が当組合に導入され、活用が始まっています。このシステムは、京丹波町により、町内の森林全域を対象に航空レーザー測量技術を利用して実施された森林資源量調査のデータを基に、樹種、樹高、材積などの森林資源情報や傾斜などの地形情報、林道などの基盤整備情報を二元管理し、運用しています。また、町役場と当森林組合を情報通信ネットワークで結び、情報の共有化を図っています。

システムの画面上の地図では、どんな樹種の木がどれくらい本数があるのか、その区域の面積や密度や材積、そして地形が解析され、現地に行かなくとも、情報の収集が可能となります。このため、従来より調査にかかる時間が短縮され、現地確認の回数も減り、効率化が図られています。

現在、組合ではこのシステムを利用し、森林経営計画に関する基礎資料の作成や地元説明会に使用する資料の作成などに活用しています。航空写真等を多用し視覚的にも理解しやすい資料となり、説明会でも好評です。

今後は、システム上で取得した情報やシステムを活用して



地元説明会の様子



勉強会の様子

作成した作業道の計画路線、搬出間伐に伴う収穫予想シミュレーションなどの内容と現地や実際の事業実績との比較・検証を進めて、より実効性の高い内容に改善していく予定です。また、京丹波町・京都府立大学・京都府立林業大学校・京丹波森林組合による利活用のための勉強会も始まり、組合活動へのフィードバックに努めています。

水源林造成事業について

水源林造成事業は、水源かん養上重要な保安林のうち、保安林としての機能が低下している森林を計画的に整備し、水源かん養機能の回復を早期に図り、より高度に発揮させるための事業です。

この事業は、森林所有者が土地を提供し、森林組合等が造林者となり森林を造成し、森林総合研究所が費用の負担と技術の指導を行う仕組み（分収造林契約）で実施します。

契約期間は概ね八十年で、契約期間中に三者間でお互いの協議の場を持ち、最終伐採の時期を定めます。伐採後は、下図の通りそれぞれの分収割合に基づき収益を受けることとなります。

京丹波町内においては、昭和三十六年から取り組みを始め、近年では戸津川・北久保・富田・質美下村区の財産区及び、生産森林組合所有林で新規契約を結び、事業を進めています。

「所有林がこの事業の対象になるかも」と思われる方は、森林組合までご連絡下さい。



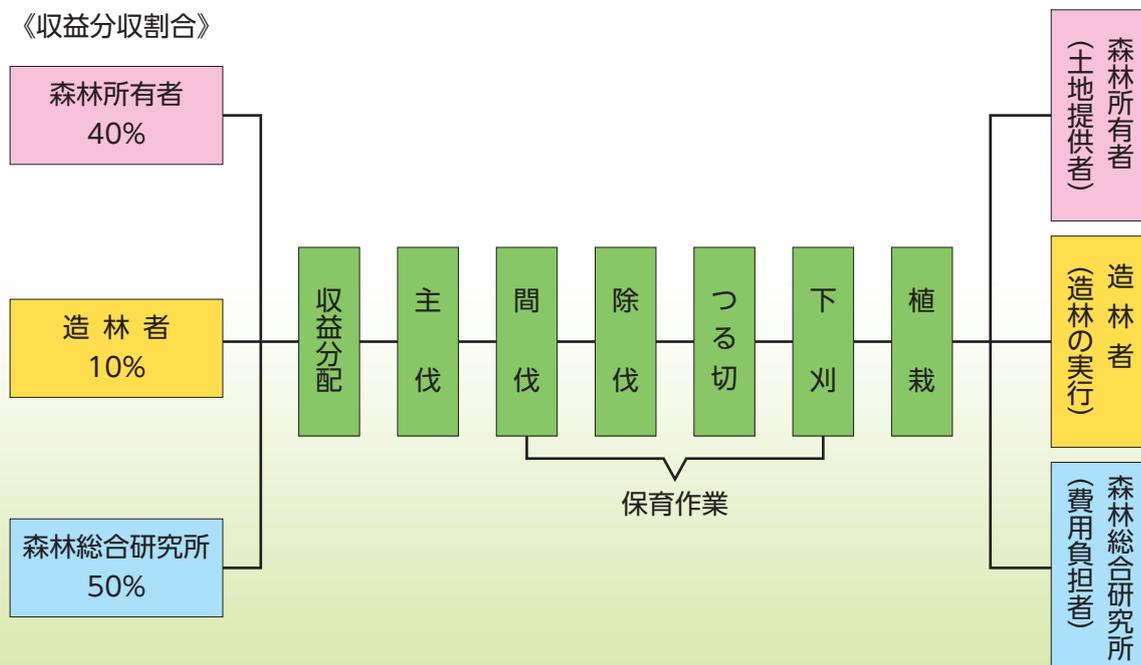
質美北久保 事業地



富田松尾 事業地

分収造林のしくみ

《三者分収造林契約》



キャップストーン研修でお世話になりました

～ 京都府立林業大学校2年生の河崎研尚君からお礼のお手紙をいただきました。

拝啓 爽秋の頃、皆様方におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。
日頃は何かご高配いただき、誠にありがとうございます。また、キャップストーン研修につきましては、1ヶ月間の長期にわたり、きめ細やかなお心配りやご指導をいただき、心より感謝申し上げます。

さまざまな作業を体験させていただいた中でも、特に丸太組工の組み立てという貴重な体験をさせていただきました。授業の中では説明を受けただけで、実際に作業するのは初めてでしたが、丁寧なご指導をいただき、その構造等を理解することができ、心よりお礼申し上げます。

末筆ながら、貴組合の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。 敬具

キャップストーン研修



キャップストーン研修とは、ピラミッドの頂上の石を意味します。2年次の後期には、学習の総仕上げとして地域社会へ入り、知識を実践できる応用力を磨きます。



研修風景(搬出作業と機械メンテナンス)

～支障木(危険木)伐採作業 承ります～

「家屋の裏山の木がいつの間にか大きくなり、台風シーズン時には怖い思いをするので伐採して欲しい!一度見に来てもらえないか」と言ったお話を、森林組合事務所にたくさん頂きます。平成28年1月から10月までにご依頼頂き、作業させて頂いた件数は77件となりました。これらの支障木の現場は、危険を伴い、また、作業の難易度も高く手間が掛かる現場も多い事から、安全に安全を積み上げながら慎重に作業を進めております。ご依頼を頂きながら、長らくお待ち頂いている組合員様には大変申し訳なく感じながら、1現場ずつ取り組ませて頂いております。組合員様のご期待に応え、更に不安を取り除けるよう取り組んで参りますので、よろしくご理解頂きますようお願い申し上げます。



支障木伐採の作業風景